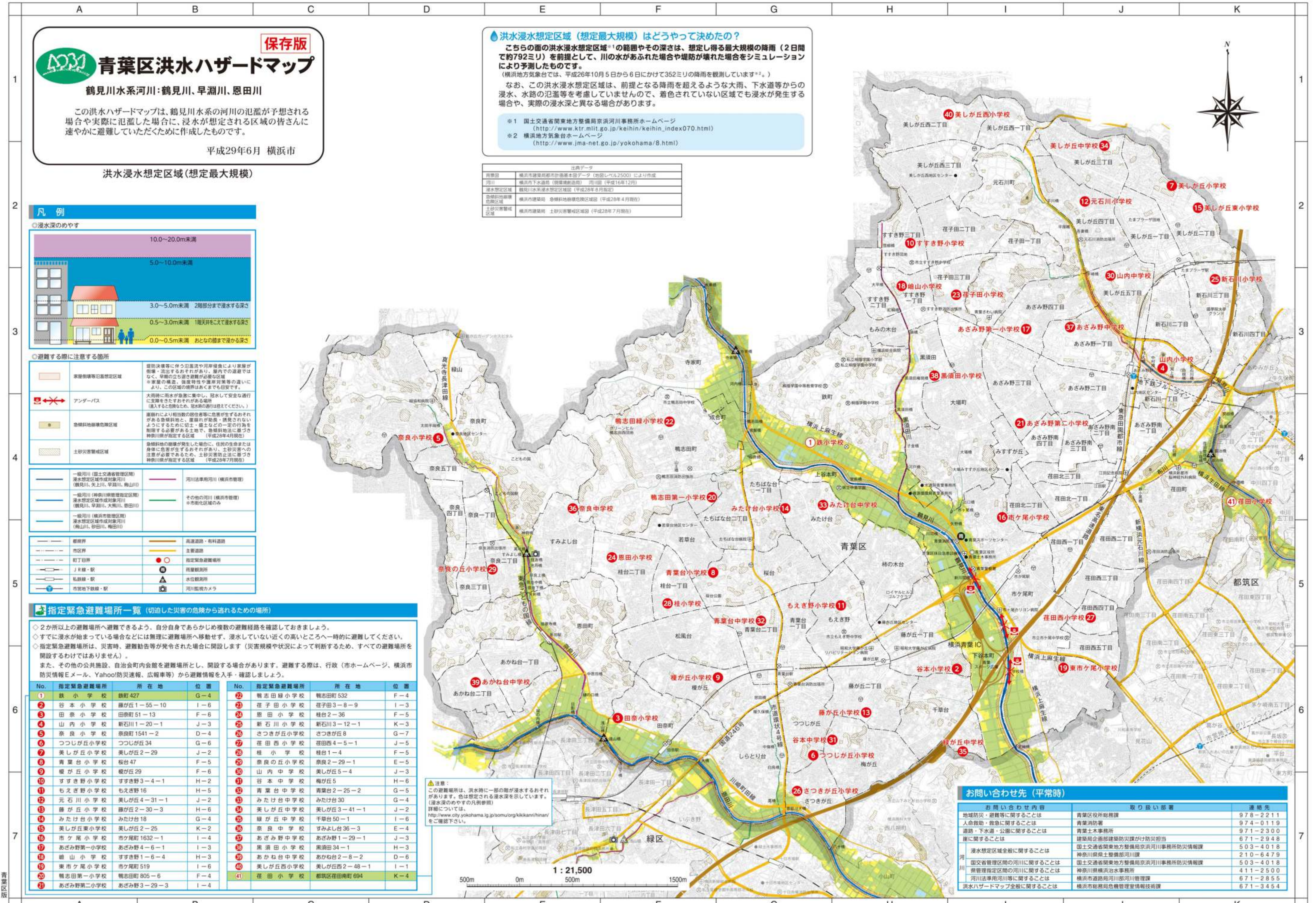




情報を入手しよう

災害が発生する危険性が高まり、避難する必要が生じた場合に、横浜市は、「避難準備・高齢者等避難開始」、「避難勧告」、「避難指示(緊急)」のほか「屋内での待避その他の屋内における避難のための安全確保に関する措置(屋内での安全確保措置)」の指示を発令します。

自動配信されるもの(PUSH型)

- 横浜市防災情報メール 要事前登録
あらかじめ登録したパソコン・携帯電話に防災情報等が配信されます。
登録方法 ● 二次元コードを読み取り ● 空メールを送信 entry-yokohama@bousai-mail.jp
- 防災アプリ 要事前登録
「Yahoo!防災速報」アプリをインストールしていただくことで、横浜市からの防災情報等をスマートフォン等で受信できます。 アプリをインストール
- Twitterアラート 要事前設定
あらかじめ設定していただくことで、避難勧告及び避難指示(緊急)等の情報を、スマートフォンで受け取ることができます。
横浜市防災Twitterアカウント @yokohama_saigai
- ファックス
聴覚障害者の方の自宅(要事前登録)、要援護者施設、洪水浸水想定区域内の事業所等に配信します。
- 緊急速報メール
緊急速報メールに対応した携帯電話に配信されます。
- 親水拠点警報装置・河川水位情報システムなど
屋外スピーカーからの音声放送やサイレンにより、災害発生危険性や避難情報等をお知らせします。
- 緊急警報放送
テレビ・ラジオ等から警報音を発し、重要な緊急な災害情報を放送します。
- 広報車等による広報
状況に応じて、必要な地域へ広報車が動員します。
また、職員を派遣したり、消防局ヘリコプターを動員させることもあります。

自身で情報収集するもの(PULL型)

- ホームページ
横浜市総務局防災情報
横浜 総務局 防災情報 検索
総務局 防災情報 検索
横浜市危機管理センター
横浜市危機管理センター 検索
横浜市危機管理センター 検索
- Twitter(横浜市防災Twitter) @yokohama_saigai
- テレビ ● ケーブルテレビ ● データ放送 ● tvk(テレビ神奈川)データ放送
- ラジオ ● コミュニティFM放送

横浜市では洪水ハザードマップのほかにも、土砂災害・液状化などのハザードマップやパンフレットを作成し、公開しています。これらは、横浜市のホームページでご覧いただけます。

横浜 ハザードマップ 検索

もしもの時にそなえよう

洪水ハザードマップで自宅と避難場所を確認しよう

- 自宅付近が洪水で浸した時にどのくらいの水深になるのか確認しましょう(浸水深のめやすの凡例参照)。
- 自宅から避難場所までの複数の道順や方向を、洪水ハザードマップに書き込みましょう。鉄道や道路を渡る場所を確認しましょう。
- 河川から離れている場所でも下水道などから水があふれることがあります。公表されている「内水ハザードマップ」を参考に、自宅付近等で浸水のおそれがある区域を確認しましょう。
- 地域では、このハザードマップを活用した訓練を行い、災害時の適切な行動につなげましょう。

横浜 内水ハザードマップ 検索

避難時の持ち出し品を確認しよう

- 避難時の持ち出し品は日ごろから準備し、すぐに持ち出せるようにしておきましょう。
- 持ち出し品はできるだけ少なくしましょう(ラジオ、飲料水、懐中電灯、医薬品、ベビー用品など)。

側溝や雨水すを点検しよう

- 側溝や雨水すをふさがないようにしましょう。
- 雨水すの吸い込み口が落ち葉やごみで詰まると、道路浸水などの原因になります。
- 「雨水す」や「L型側溝」の上に車乗り入れブロックなどを置かないよう、皆さんのご協力をお願いします。

浸水に備えよう

- 家にあるもので浸水を防ぎましょう。土のうやプランター、家庭にあるごみ収集袋などを利用して水のうなどを使って浸水を防ぐことができます。
- 洪水時には、洗濯機、トイレ、風呂場の排水口などと思わぬところから下水が逆流することがあります。排水口を水のうなどでふさぎましょう。

家庭でできる浸水防止対策の一例

ごみ収集袋(45リットル)を二重にし、中に半分くらい水を入れ、水のうを作ります。

水のうと長めの板など組み合わせ、浸水を防ぎます。

プランターをならべ、レジャーシートで包み、浸水を防ぎます。

水のうは段ボール箱に詰めることで、強度が増します。

浸水防止対策は応急処置です。
浸水の危険性があると感じるときは、早めに避難しましょう。

こんなときはどうすればいいの? 避難情報が出たら

気象・災害の状況

- 大雨による(重大な)土砂災害や浸水、河川の増水や氾濫により(重大な)洪水害が発生するおそれがある
※()は警報発表時の状況
- 台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想されるなど、重大な土砂災害や浸水害が発生するおそれがある

情報の種類

- 大雨・洪水注意報
- 大雨・洪水警報
- 大雨特別警報

行政の対応

- 雨量監視体制を強化
- 災害対策警戒本部を設置
- 災害対策本部を設置

みなさんの行動

- こまめに気象情報を入手しましょう。
- 横浜市ホームページなどで、河川の状況を確認し、河川の水位が急に高くなったり、流れが急激に速くなっていなかったら、注意しましょう。
- 道路の側溝から大量の水があふれていないかなど、外の様子に注意しましょう。

避難準備・高齢者等避難開始

- 避難勧告や避難指示(緊急)を発令することが予想される場合
- 対象地区に避難準備・高齢者等避難開始を発令
●市民のみなさんへ避難準備または自主的な避難を呼びかけます。
●職員を派遣し、避難場所を開設します。
河川の急な増水時には、避難準備・高齢者等避難開始を経ずに避難勧告等が発令することがあります。
- 避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は、避難場所へ避難を開始しましょう。
- その他の人は、家族などとの連絡、持ち出し品の用意など、避難の準備を開始するとともに、危険と思ったら早めに避難してください。

避難勧告

- 災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まった場合
- 対象地区に避難勧告を発令
●市民のみなさんへ避難を呼びかけます。
●職員を派遣し、避難場所を開設します。
- 速やかに避難場所へ避難しましょう。
※下欄の「無理せず安全な避難を心がけよう」もお読みください。

避難指示(緊急)

- 災害が発生するなど状況がさらに悪化し、人的被害の危険性が非常に高まった場合
- 対象地区に避難指示(緊急)を発令
●市民のみなさんへ避難指示を発令します。
●職員を派遣し、避難場所を開設します。
●災害応急活動を実施します。
- まだ避難していない人は、直ちに避難場所へ避難しましょう。
※下欄の「無理せず安全な避難を心がけよう」もお読みください。

◇これらの情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は、速やかに避難を開始してください。

大雨のときはこんな点に注意しよう

こまめな情報収集を心がけよう

インターネット テレビ ラジオ 携帯電話 スマートフォン

集中豪雨に注意しよう

突発的かつ局地的な集中豪雨に備えて、ふだんから雨の様子をチェックしておきましょう。

やや強い雨
1時間に10～20mmの雨
地面からの跳ね返りで足元がぬれる。長く続く時は注意が必要。

強い雨
1時間に20～30mmの雨
傘をさしていてもぬれてしまうほどの土砂降り。側溝や下水などがあふれる。

激しい雨
1時間に30～50mmの雨
ハヤツをひっくり返したような雨。道路が川のようになる。道路が乾くまで続く。重く雨が降りやすくなる。

非常に激しい雨
1時間に50～80mmの雨
浸水の危険性がある。あたり一面が白々になる。災害が起こりやすくなる。

猛烈な雨
1時間に80mm以上の雨
息苦しくなるような圧迫感がある。大規模な災害が発生するおそれがある。厳重な警戒が必要。

地下街・地下施設の浸水は危険です

浸水の危険性があると感じたときは、速やかに地上階に避難しましょう。

地上が浸水すると一気に水が流れ込んできます。

30～50cm程度の浸水でも水圧でドアは開きません。

安全な経路で避難しよう

河川沿いや急傾斜地(崖)沿いの道は避けて避難しましょう。大雨により、側溝やマンホールの蓋が外れている場合があるので、転落しないよう十分に注意して、近寄らないようにしましょう。

隣近所へ声をかけよう

ご高齢の方、子ども、障害のある方などは避難に時間を要するため、早めの避難が必要で、洪水時には地域の皆さんで協力し合って安全に避難しましょう。